

あらまし

平成15年度の一般会計を含む14会計の決算がまとまりましたので、お知らせします。
 決算については、9月24日から開かれている定例市議会で審議されています。
 詳細 財政課（市庁舎3階、内線1413）

（表1）平成15年度 重点政策事業

地域経済の活性化と緊急雇用対策

雇用創出緊急奨励金
 緊急雇用創出事業
 セーフティネット資金などの創設ほか

少子高齢化社会に対応した福祉の充実

乳幼児医療費特別給付費の助成拡大
 公園遊具設置ほか

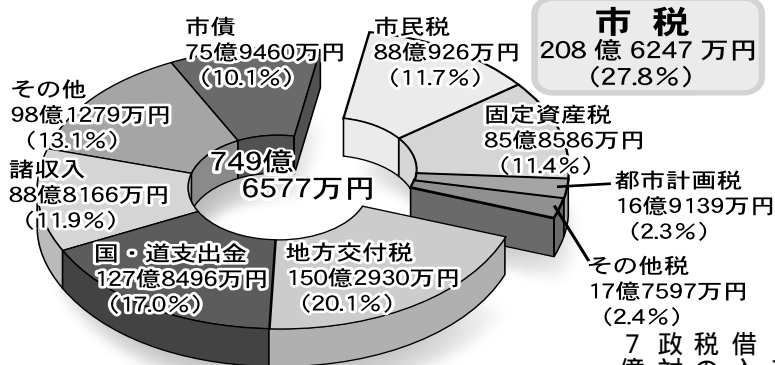
地域情報化の推進

会議録検索システム
 地域情報通信基盤整備促進事業補助
 風の子ネットワークの推進ほか

平成15年度決算と重点政策課題

市では、平成12年度に策定した第五期帯広市総合計画に掲げられた五つのまちづくりを目標として、平成15年度予算には表1の3点の重点政策事業を掲げ、新規施策の展開や既存事業の拡充など限られた財源の中で優先的に事業を推進しました。
 その結果、一般会計を含む全14会計の歳出総額は、1265億円となりました。

一般会計 歳入（図1）



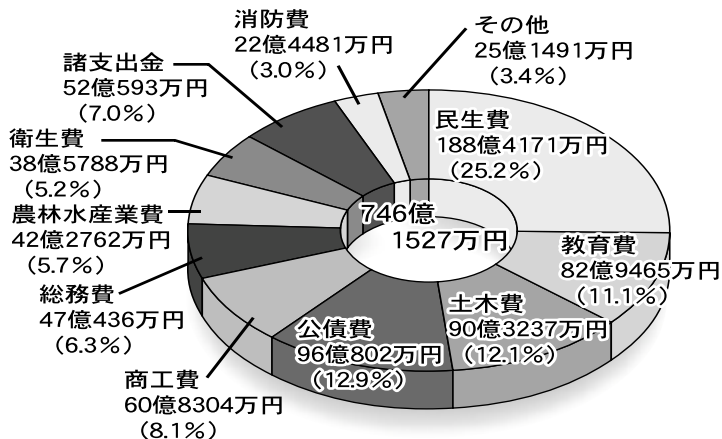
平成15年度の決算額は、歳入が749億6577万円、歳出が746億1527万円となり、差引き額は3億5050万円となりました。
 このうち、平成16年度へ繰り越した8万1千円を差し引いた残りの3億5041万9千円が実質的な黒字となりました。

一般会計の収支

一般会計の収入の特徴
 収入の中では最も構成比が高い市税が平成14年度と比較し約7億2千万円減少しました。また、国から交付される地方交付税は約3億円減少しました。道支出金も道路整備費委託金などが減少したことなどで約7億7千万円の減少となりました。
 その一方、生活保護費や児童扶養手当などが増加したことなどで国庫支出金が約7億8千万円増加しました。また、借入金である市債は地方交付税の財源不足を補う臨時財政対策債などの発行により約7億1千万円増加しましたが、

収入全体では約1億円の減少となりました。（図1）
一般会計の支出の特徴
 支出では、平成14年度と比較すると児童扶養手当の増加などにより民生費が約11億8千万円、借入金の返済に使った公債費が約3億1千万円、財政調整基金積立などで諸支出金が17億8千万円、災害復旧費でその他が2億2千万円それぞれ増加しました。
 その一方、教育費が約15億1千万円、農林水産費が約5億8千万円、商工費が約6億5千万円減少し、支出全体では約1億3千万円の減少となりました。（図2）

一般会計 歳出（図2）



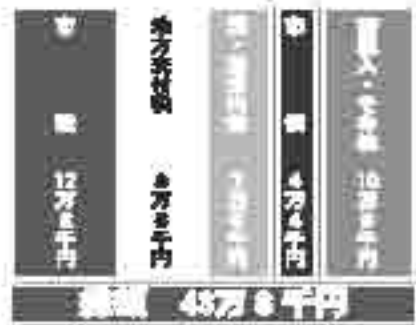
歳出各費目には、各仕事に従事した職員の給与費が含まれています。なお、給与費の総額は、113億8281万6千円です。

平成15年度

決算の

市民1人当たりで
見てみると

一般会計の決算額を市民1人当たり置きかえらるといくらかになるのか見てみます。



まず入ってきたお金では、1人当たりが納めた市税が約12万2千円、国から交付された地方交付税が約8万8千円、市が新たに金融機関などから借りたお金が約4万4千円、このほかに、国や北海道からの負担金・補助金、各種使用料・手数料などを加え、合計で約43万8千円となっています。

一方使ったお金は、老人福祉や児童福祉などに約11万円、農林業・商工関係の産業振興に6万円、教育・文化に約4万8千円、道路や公園、公営住宅の整備などに約5万3千円となっています。合計

市民1人当たりの主な歳出決算額 (平成16年3月末人口171,132人)

老人福祉施設や
保育所・生活扶
助費・乳幼児へ
の医療給付金な
ど福祉のために
約11万円



農林業・商工関
係の産業振興の
ために
約6万円



小中学校やスポ
ーツ施設の建築、
運営費など、教
育・文化のため
に
約4万8千円



道路・公園・公
営住宅整備など
のために
約5万3千円

特別・企業会計の決算

では1人当たり約43万6千円のサービスを提供したことになります。

(単位 千円)

特別会計の収支 (10会計)

	歳入	歳出	実収収支
国庫返還金等	13,782,466	14,333,602	-551,007
老人保健	14,350,643	14,352,141	-11,498
介護保険	6,453,034	6,418,034	35,000
国庫府県土地開発事業	838,185	838,185	0
国庫府県事業	34,657	34,657	0
国庫府県事業	78,159	78,411	2,741
国庫府県事業	111,823	111,823	0
国庫府県事業	190,854	190,854	0
国庫府県事業	1,245,982	1,245,982	0
国庫府県事業	1,282	1,282	0

企業会計の収支 (3会計)

	歳入	歳出	実収収支
国庫府県事業	617,377	667,403	-50,026
国庫府県事業	6,458,200	7,668,117	-1,199,917
国庫府県事業	6,380,042	6,323,528	56,514

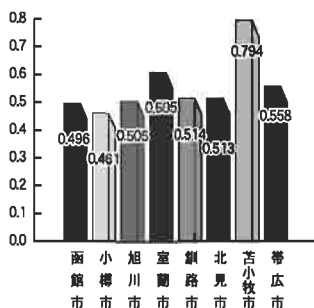
市民のみなさまへ

地方公共団体の財政状況を判断する目安として、次の三つの財政指標があります。

財政力指数

財政力の強弱を示す指標です。この値が高いほど財政に余裕があるとされ、指数が「1」を超える団体には国からの地方交付税が配分されない仕組みになっています。

財政力指数



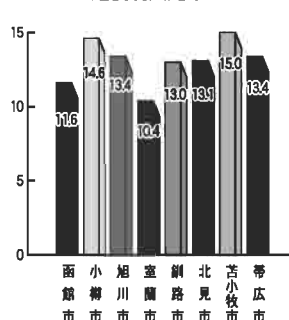
帯広市は0.558となっており、道内の主要都市とほぼ同等の財政力であることが分かります。

起債制限比率

地方公共団体が発行する借金の返済比率のことです。この値が大きくなるほど一般財源（市税などの使い道が特定されていない財源）に対する借金の比率が高くなり、健全な財政運営を行うために、市債発行の上限枠を設

定するなど比率の上昇を防ぐよう努力しています。

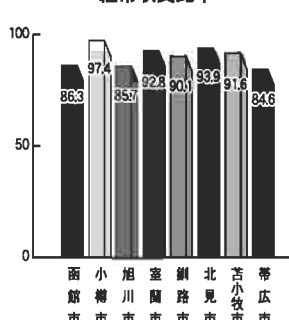
起債制限比率



経常収支比率

職員の給与や生活保護費、借入金の返済など、毎年必ず支払わなければならない固定経費が経常的一般財源に対してどれだけの比率を占めているかを表すものです。

経常収支比率



この値が高くなるほど財政の弾力性が失われ、さまざまな事業をする財源に余裕がなくなってきたことを示しています。そのため、市として行財政改革の着実な推進を図りながら、比率上昇の抑制に努めています。84.6と上昇しています。

市民協働のまちづくりに向けて

今後、市税や地方交付税など収入の伸びが期待できない中で、福祉をはじめ、多様な市民要望に応えていくためには、今まで以上に税金の使い

バランスシートに見る 帯広市の資産と負債

なぜバランスシートを作成しているの？

地方自治体の一般会計、特別会計の予算・決算は、1年間のお金の出入りのみを表したものになっています。

しかし、その表し方では今ある公共施設などの資産価値や、これから返済しなければならぬ借金などの負債がどのくらいあるのかが読み取ることができません。

そこでそれらの状況が一覧で対比できるよう、企業などで用いられている「複式簿記」で整理された「バランスシート」を作成しています。

左側の借方には皆さんが日々ご利用している公園や道路、学校などこれまでつくられた資産を、右側の貸方には負債などそれらの整備に必要なお

方を工夫しなければなりません。そのためには行政のスリム化に取り組み、皆さんに情報を積極的に公開しながら、何を優先すべきか負担を含めて一緒に考え、協力し合いながらまちづくりを進めていくことが必要です。

金をどのように調達したかを示しています。

借方と貸方は同額で「資産＝負債＋正味資産」となり、左右のバランスがとれていることから「バランスシート」と呼ばれています。

バランスシートから分かること

平成16年3月31日現在、市が所有している総資産額は約242.5億円、負債約119.6億円、正味資産約122.9億円となります。

資産の内訳は、道路・公園・学校などの有形固定資産が約89.4パーセントを占めています。平成15年度は、公営住宅の建替え、学校の改築などによって資産は増えましたが、減価償却による減少の割合が上回ったため、前年度対

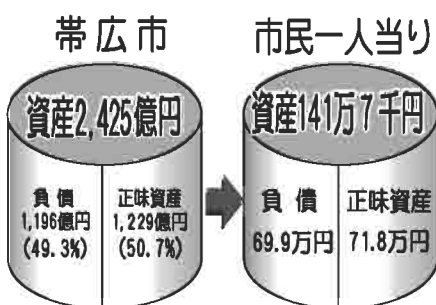
比約10億円の減少となりました。

負債は、主なものとして将来返済しなければならぬ借金で資産総額の約49.3パーセントを占めています。

新しい借金をしないように努めています。平成13年度の制度改正により地方交付税の一部が地方債（臨時財政対策債）に振り替わったことにより前年度比約6億円の増加となりました。

正味資産は、皆さんが納めた市税をはじめ、国や道からの補助金を財源とした資産で、今後返済しなくてもよい支払い済みのものです。

正味資産が多く、負債の少ないことが望ましいとされていますが、平成15年度の正味資産の比率は、50.7パーセントで、前年度から0.6パーセント悪化（減少）しました。



平成14・15年度バランスシート（貸借対照表）

平成16年3月31日現在

(単位:100万円)

借 入				貸 方			
【資産の部】	14年度	15年度	差 額	【負債の部】	14年度	15年度	差 額
1. 有形固定資産 （うち土地）	217,952 (63,341)	216,923 (64,268)	-1,029 (927)	1. 固定負債	111,846	112,484	638
（1）市庁舎等	10,985	10,639	-346	（1）地方債	92,296	92,908	612
（2）保育所等	3,566	3,414	-152	（2）債務負担行為	2,448	2,664	216
（3）ごみ処理施設等	2,451	2,364	-87	物件の購入	2,448	2,664	216
（4）労働施設等	143	137	-6	債務保証又は 損失補償	0	0	0
（5）農業施設等	9,889	9,416	-473	（3）退職給与 引当金	17,102	16,912	-190
（6）観光施設等	4,253	4,220	-33	2. 流動負債	7,111	7,156	45
（7）道路・公園・住宅等	134,075	133,533	-542	（1）地方債翌年度 償還予定額	7,111	7,156	45
（8）消防庁舎等	3,529	3,484	-45	（2）翌年度繰上 充用金	0	0	0
（9）教育施設等	48,969	49,626	657	（3）その他	0	0	0
（10）その他	92	90	-2	負債合計	118,957	119,640	683
2. 投資等	22,146	20,857	-1,289	【正味資産の部】			
（1）投資および出資金	14,257	14,257	0	1. 国庫支出金	59,216	59,134	-82
（2）貸付金	1,250	1,109	-141	2. 道支出金	10,822	10,609	-213
（3）基金	6,639	5,491	-1,148	3. 一般財源等	55,355	53,118	-2,237
特定目的基金	5,691	5,491	-200	正味資産合計	125,393	122,861	-2,532
土地開発基金	948	0	-948	負債・正味資産合計	244,350	242,501	-1,849
定額運用基金	0	0	0				
3. 流動資産	4,252	4,721	469				
（1）現金・預金	1,640	2,016	376				
財政調整基金	1,023	1,649	626				
減価基金	286	17	-269				
歳計現金	331	350	19				
（2）未収金	2,612	2,705	93				
地方税	2,339	2,424	85				
その他	273	281	8				
資産合計	244,350	242,501	-1,849				

学校・道路などの公有財産で道路や建物などは減価償却をしています。土地代は買ったときの価格で計上しています。

関係団体への出資金と福祉対策やスポーツ振興などに充てるための貯金です。

現金で持っているものと必要時にすぐ現金化できる預金のほか、市税など市に納めてもらうお金のうち未納になっているものも含まれています。

学校・道路などを建設するために、市が国や銀行などから借りているお金の残高です。

普通会計における市職員が年度末に全員退職した場合の退職金です。実際に今払うものではありませんが、将来発生するものとして負債に計上しています。

地方債の翌年度の返済予定額です。

今まで学校・道路などを建設するために使ったお金のうち、国や道から補助金としてもらったものや市税などの今後返済の必要が無いお金の総額です。

学校・道路などの公有財産で道路や建物などは減価償却をしています。土地代は買ったときの価格で計上しています。

関係団体への出資金と福祉対策やスポーツ振興などに充てるための貯金です。

現金で持っているものと必要時にすぐ現金化できる預金のほか、市税など市に納めてもらうお金のうち未納になっているものも含まれています。

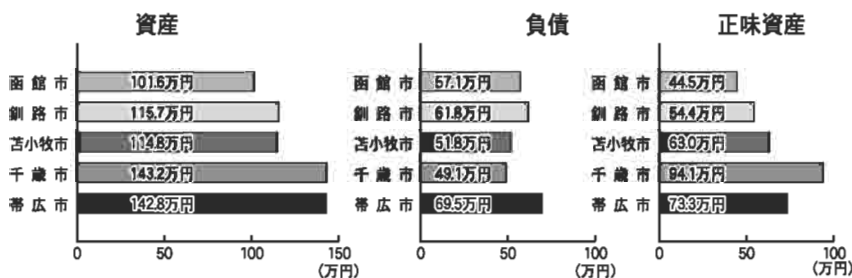
学校・道路などを建設するために、市が国や銀行などから借りているお金の残高です。

普通会計における市職員が年度末に全員退職した場合の退職金です。実際に今払うものではありませんが、将来発生するものとして負債に計上しています。

地方債の翌年度の返済予定額です。

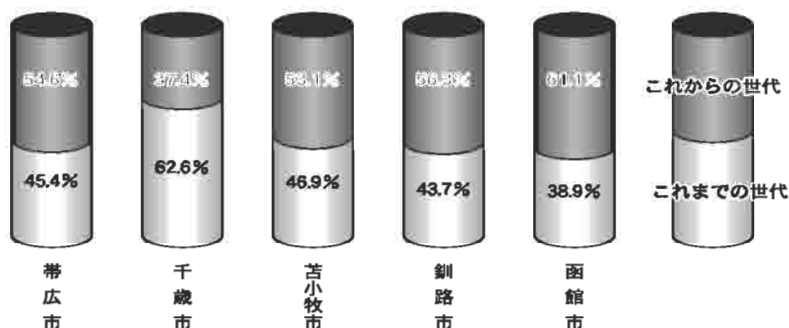
今まで学校・道路などを建設するために使ったお金のうち、国や道から補助金としてもらったものや市税などの今後返済の必要が無いお金の総額です。

平成14年度 市民1人当たり



他都市と比べると、
市民1人当たりのバランスシート
平成14年度決算で他都市と比較すると、帯広市は、1人当たりの資産が多く公共施設などが充実していることが分かります。
しかし負債も多く、地方債などの借金により整備しているため、将来の負担が大きいかとも分かります。

平成14年度 世代間負担比率



世代間の負担比率
有形な固定資産のうち、既に負担（支払われた）した割合と、これから負担しなければならぬ割合を表したものです。
これからの負担割合が大きいと財政の硬直化を招きますが、「世代間負担の公平化」の視点からは、既に負担された割合が高ければ良いということではありません。
帯広市は、他市と比較しても標準的な割合となっています。